



Tosa Junior & Senior
High School

振興会だより

編集責任者 広報担当 高木直之 発行者 振興会会長 島内祥宏

E-mail: chairman.sinkokai@gmail.com 2008年(平成20年12月発行)



充実の学校生活

- 校長室だより
- 川崎幾三郎前理事長ご逝去
- 旧校舎解体式
- 救急法講習会について
- 芸術の秋 大きな実り
- 文化行事について
- Speech and Debate Review 2008
- 中学校説明会に1200人
- 新校舎第2期工事報告
- 第18回連絡協議会報告
- 新校舎建築募金 2億円を突破
- あとがき「塩の道」

向陽祭に献血車が来ます!!
2月7日(土)12:00~15:00

保護者の皆様献血にご協力下さい
~インターアクト部~

● 第18回連絡協議会報告

振興会理事 島崎留瑞

- 12月10日(水)午後5時より、土佐中等学校会議室(新校舎)にて本年度2回目の連絡協議会が行われました。島内振興会会長の挨拶に続き、池上校長先生から学校の近況や落雷裁判についての詳しい報告があった後、順次各部部長先生より次のような報告が行われました。
- **教頭先生より**
高校棟を実際に使用しての反省点を中学棟建設に反映させたい。1期工事完了後、体育館の窓のひさが取り付けられていないことが判明。業者側と対応策を協議し、春休み中に改善工事を完了させる計画。
- **教務部より**
中学棟建設工事の進捗状況は計画より早く進行しており、6月末に予定通り引越しが出来る見通し。
- **図書部より**
旧卓球場に図書館を移設し、生徒にも概ね好評。
- **進路指導部より**
センター試験出願状況、推薦合格等報告、志望状況報告。
- **環境部より**
「保護者からのおすすめの1冊」の取り組み。
- **生徒部より**
女子の下宿の確保。
学校評価アンケートで食堂のメニューは好評。試食会を年1回程度定期的に開きたい。
- **生徒部より**
いじめ等のトラブルが主に中学校で発生。大半は各学年で指導し、生徒部の介入はない。補導専任を経験した先生が学年主任となることで予防・対応の面で一定の効果がある。
- **特活部より**
運動会―午前6時の開門に早朝から並ぶ保護者が多数いた。取った席については運動会開始1時間以内に着席するようお願いした。生徒会長の公約により、校内3ヶ所に目安箱を設置。クラス、氏名入りのもののみ採用。
- **事務長より**
振興会からの寄付金で事務室前へプラントの花を設置。
学校評価重点項目である安全危機管理について―「防犯・防災」、情報漏洩については安全確認済み(食(米・牛乳)については学校寮ともに確認済み。TSLについて―11名の先生が応募し、8名受講済み。
- **広報部より**
学校説明会―参加者800名超、詳細は振興会便り本文参照。
新校舎建設費募金について、11月中旬に法人向け、11月29日に同窓生向けに募金依頼の手紙を発送し、12月4日時点で660万円の募金があり、総額2億円を突破。但し、募金依頼に対し不快感を表す人もあるので、内容・方法等検討する必要がある。
- **振興会からの質問・提案と学校からの回答**
遠足等で遠方に行ったときの救急態勢の確保と生徒が体調の変化を言い出しやすい雰囲気作りをしてほしい。
運動会の音響を改善してほしい。
できる範囲での改善を検討。
落雷裁判の賠償金について。
学校保有の有価証券で支払いが可能で授業料への影響はありません。
- **塩の道**
期末考査発表中の大変お忙しい中、先生方には貴重な時間を割いていただき有難うございました。毎回、たくさんのお話を聞かせていただき、学校についてより理解を深めることが出来るこの連絡協議会を、これからも続けていきたいと思っています。

● あとがき 塩の道

振興会副会長(広報担当) 高木直之

先日、我が家の前に鳥の巣箱のような箱が設置されました。実は、「塩の道スタンプリアー」のスタンプリアーでした。中には、スタンプリアーと台紙を兼ねた塩の道の説明書が入っていました。説明書によると、四百年程前から香南市の海浜は一大製塩地で、赤岡では塩田が開かれていました。この塩を奥地に運ぶための道を「塩の道」といいます。塩に限らず生活必需品も運搬され、相互往來の重要な産業道でした。今は、香美市物部町大柄・香南市赤岡町の約30kmの区間が「塩の道」として整備されています。これはまだ一部で、大柄から奥に入り、①別府の四ツ足峠②久保の韭生越え③笹アラン峠の祖谷越えと、3つの往還が四国山脈を越えて徳島へとつながり、多くの人の生活を支えた道でした。「塩の道」は日本ウオーキング協会が選定した「美しい日本の歩きたくなるみち五〇〇選」に選ばれています。皆さんも、四季



折々の自然に触れ、道沿いの史跡などを見ながら、「塩の道」をのんびりと歩いてみてはいかがでしょうか。

新校舎建築募金 2億円を突破 ● 新校舎建築募金委員会より
皆さまからのご協力により、新校舎建築募金が2億円を突破しました。2年目に入り、やや停滞気味で、4億円の目標達成に黄信号がともっているとの判断から、この11月、募金委員会から法人および同窓会宛に一層のご支援をお願いする文書を発送したところ、同窓生からの募金が増え、4日で600万円以上集まり、一気に2億円の大会に乗りました。もちろん、この中には振興会からの募金も含まれており、本部支部を合わせた総額は2948万9968円に上っています。今後も募金活動は積極的に行ってまいります。皆さまの一層のご協力をお願いいたします。

校長室だより

学校長 池上武雄



○前理事長川崎幾三郎様ご逝去

本校理事長を三度にわたって務められ、そのご在任中いづれも校舎改築という大事業を推進され本校発展の礎を築かれまし
た川崎幾三郎様が9月1日お亡くなりになりました。昭和23年3月、第5代理事長に就任された時は、戦災によるバラックからの校舎建築事業を、昭和32年4月からの第7代理事長の時には、本校創立50周年記念事業としての校舎新築（現在中学棟と体育館が残っていますが明年8月には取り壊し予定）を推進完工され、さらに平成17年3月、三度目

の第9代理事長に就任され現在進行中の新校舎建築事業をご決断いただきました。

ご病床にあつて生前には新校舎をご覧いただけませんでしたがお通夜の日ご遺体を乗せた車が本校を回られて、教職員などらびに大勢の生徒達がお別れのご挨拶をいたしました。9月5日の社葬には、宮地貫一理事長が葬儀委員長を務められ告別の辞を、また私が学校を代表して弔辞を述べさせていただきました。告別式には大変多くの方々がお集まり、改めて故人のお人柄とご功績をしのび心からのご冥福をお祈りいたしました。

○新校舎建築プロジェクトの進捗状況

ここ2年台風の到来が全くないうという天候にも恵まれ第一期工事は本年6月25日完工、免震構造の新高校棟と耐震構造の新体育館の引渡しを受けました。
6月28日から3日間新校舎への移転大作戦を挙行、無事移転を完了し、7月1日から新しい高校棟及び体育館での授業が始まりました。

これより先、6月4日には京都大学総長尾池和夫先生（34回生）が新校舎を視察されました。高校棟地下の免震構造に対しては「震源地が遠くここまで来たときには横揺れする南海地震にはうつつけの構造。非常に良いモデルケースで世界中に宣伝して欲しい」（朝日新聞）と太鼓判を押して下さいました。

7月14日、旧教職員の皆様にも参加いただき旧中央棟ならびに旧高校棟の解体式をとりおこない、これまでの学び舎に感謝し第二期工事の無事を祈願いたしました。また旧校舎定礎からタイムカプセルを取り出してご披露したほか新校舎をご覧いただきました。

第二期工事も8月21日から始まり極めて順調に工事が進められております。第一期工事でおなじみとなった赤いタワークレーンも高々と立ち、現在では地下コンクリート打設工事が完了したところ です。

12月中には免震装置が設置されます。なお第二期工事の完成時期は、来年6月末エントランス部分と中学棟が完成、次いで旧中学棟と旧体育館の解体工事を経て運動場の整備がなされ11月には全プロジェクトが完了する予定となっています。

○新校舎建築募金について

多くの方々のご協力をいただき

○落雷訴訟決着へ

平成8年8月大阪府高槻市でサッカー試合中に落雷事故に遭い重度障害を負った当時本校一年生北村光寿さんとご家族が、本校ならびに主催者の高槻体協に対して起した損害賠償訴訟について、皆様に大変ご心配をお掛けいたしました。最高裁を経て高松高裁での差し戻し審判決（平成20年9月17日）を被告側が受け入れることで確定をみました。

10月1日、私ほか先生2名が北村光寿さん宅を訪問し、学校側の責任を認め、長期にわたり心労をお掛けしたことを謝罪するとともに、この事故を教訓として二度とこのような学校災害を起さないよう生徒の安全対策に取り組んでゆくことをお約束いたしました。

また、判決に従って各損害賠償金元本および遅延損害金を誠実にお支払いすることのほか、今後北村光寿さんの障害克服のため、同窓生として支援してゆくこともお約束しました。

（平成20年11月末）

川崎幾三郎前理事長ご逝去

学校広報部

宇田家とともに本校を創設された川崎家のご当主で、本校理事長を三度にわたって務められた川崎幾三郎氏が、9月1日お亡くなりになりました。

川崎幾三郎氏は、大正6年のお生まれで、昭和23年3月に第5代理事長に就任、同27年1月までの4年間理事長を務められました。この間、戦災にあつた校舎建築事業が進められました。続いて、昭和32年4月から再度理事長（第7代）になり、昭和50年4月までの18年間理事長を務められました。この二度目の理事長在任中は、創立50周年記念事業としての校舎新築事業を推進されました。さらに、平成17年3月には三度目の理事長（第9代）に就任。病床にありながら、現在の新校舎建築事業の責任者として、重大な責務を果たされました。平成19年9月に退任されてからは、お体の状態もすぐれず、完成した新校舎をご覧になることもないまま、逝去されました。

三度にわたる理事長として

の在任中に、いづれも校舎改築という大きな事業を推進し、本校発展の基礎を築かれた川崎幾三郎氏のご遺体が、通夜に先立つて9月4日午後4時過ぎ、本校を訪れました。ご自身が契約書に署名捺印されてスタートした建築工事によつて完成した校舎前をご遺族とともに車で回られました。通路の両側には、教職員はもとより、放課後の部活や運動会での作業を中断して大勢の生徒が集まり、お別れのご挨拶をしまし

ました。また、告別式が、不二電気工芸(株)・川崎林産工業(株)の合同社葬式として、5日午後0時半から、高知市の風水晶で執り行われました。勤行、一般会葬者の焼香の後、葬儀委員長の宮地貫一本校理事長が告別の辞を、さらに池上校長が本校を代表して弔辞を述べました。参会者



は改めて故人のお人柄と功績の大きさをかみしめました。式の最後に喪主であり、本校理事でもある長男康正氏から御礼の挨拶が述べられ、多くの参列者の見守る中、ご出棺となりました。

学校関係者一同、川崎前理事長のご遺徳をしのび、心からご冥福をお祈りいたします。

旧校舎解体式

振興会理事・吉澤文治郎



7月14日（月）午前10時より、「旧校舎解体式」が行われました。「校舎解体式」は、新校舎プロジェクトの一環として、旧校舎解体工事の安全を祈願するために行われたものです。旧校舎玄関前に設営された会場に、宮地理事長をはじめとする学校法人の理事の皆様、池上校長先生をはじめとする教職員代表の皆さんや懐かしい旧職員の皆さん、そして同窓会・振興会の代表が集まり、神官さんによつて厳かに神事が執り行われました。神事後、旧管理棟の玄関脇に埋め込まれた「定礎」と刻まれた石が取り外され、銅板でつくられたタイムカプセルが取り出されました。宮地理事長と池上校長先生の手によつて取り出されたタイムカプセルの中からは、旧校舎の設計図面や当時の新聞、学校の教職員名簿、生徒手帳など、懐かしいものがたくさん出てきました。

その場で出席者に披露され、出席者一同、当時の思い出、旧校舎の思い出に浸つて懐かしい時間を過ごしているようでした。

昭和46年にこの管理棟と高校棟が、翌47年中学棟が、翌48年に体育館が完成したという旧校舎ですが、35年以上の歳月を経てその役割を終え、このたび解体されることになりました。その校舎には、そこで学び遊んだ生徒達や、教鞭を執られた先生方の思い出がたくさん詰まっています。特に、旧職員の先生方は、在職当時の想い出を偲ぶように、解体される旧校舎を見つめておられるのが印象的でした。

解体式の後には、新校舎の見学会が催され、耐震免震はもろろんのこと、素晴らしい設備、環境の整った新しい校舎をゆつくりと見て回ることができました。校舎が解体されるというのは少し寂しいことですが、こ



れからの生徒達が、素晴らしい環境のなかで育っていくことが確信できる、そんな解体式でした。

救急法講習会について

西優子先生

中間テスト中の10月15日に、教職員救急法講習会を実施し、多くの先生方がジャージ姿で体育館に集合しました。

日本赤十字社の先生の指導のもと、心肺蘇生法、AED、運搬法、止血法、包帯法などを二通り学習した後、地震を想定したシミュレーションを行いました。

心肺蘇生法は各自キューマスクを使用してダミーで練習、AEDは3つの班に分かれ3人ずつ練習しました。学校での練習に加え自主的に各種訓練に参加している先生もたくさんいて、皆さん積極的に訓練に取り組んでいました。

運搬法は担架がなく人手で運ぶ方法や毛布を使って運ぶ方法を訓練しました。止血法は、直接傷口を圧迫する方法を実習し、感染防止のためビニール手袋があればよいことも学習しました。三角巾を使って包帯をする方法や腕を吊る方法も練習しました。シミュレーションでは、あ

らかじめ授業中の先生役、生徒役を決めて、救護・避難するという設定でした。歩行困難のため担架で運ぶ必要性のある生徒役には、

えて体重の重い先生を、痛みを訴えたり、助けを求め、生徒役には声が必要な役者達が揃い、期待通りの名演技(?)で先生役を混乱させてくれました。シミュレーションという形になると練習と分かつていても、一瞬たじろぎ、体が動かなくなったり、迷ったりするということを実感でき、訓練を重ねることによって冷静に判断・行動できることを再認識することができました。

最後に南海地震についての防災指導を受け、訓練や災害に対する意識向上が必要であることを痛感し、生徒の安全対策・安全確保を免震校舎というハード面とともにソフト面でもより充実していくよう教職員一同決意も新たに、充実した有意義な講習となりました。

文化行事について

特活部長 酒井満先生

本校の文化行事は、開校記念日行事として平成5年度(第1回)から演劇・音楽・講演を中心として始まり、第16回を迎えた今年は、「漫才・コント・歌とトーク」を演題として、テツ and トモ、ロケット団の2組の出演依頼を4月の初めに東京の立川企画を通して交渉し、実施の運びとなったものです。11月12日(水)の当日は、新体育館で初めての文化行事でしたがテツ and トモ、ロケット団ともにさすがプロで、1600余名の全校生徒を90分間、笑いの渦に巻きこみました。生徒たちにもよい思い出になったことでしょう。

立川企画の松岡社長さんから次のようなお誉めの言葉をいただきました。

このたびは、大変お世話になりました。細かいお心遣いに大感謝です。テツ・トモ、ロケット団の4人も、良い思い出になったようです。三度目に、小さな声で「静かに」とおしゃった先生の言葉で、若者の大集団がシンと静まり返ったのは、心地良い驚きでした。土佐中・土佐高の生徒、教師、凄いと感じた瞬間でした。単に学業の優秀さだけでは出来



Speech and Debate Review 2008

トーマス・リチャードソン 先生



Tosa has enjoyed another successful year of speech and debate in 2008. Two things have been especially encouraging. Firstly, giving a speech has become popular. This was the first year that too many students wanted to join the senior high speech contest. During the summer vacation there was a test for students who wanted to compete. As a result we were able to choose a very high quality speaker, Mayu Kondo, who won the Kochi competition.

Secondly, we have been able to see students developing. Many competitors had taken part in previous contests, and were able to build on their experiences. Tasuku Matsumura, who won the Takamadonomiya contest, had a very natural style, thanks to his experience of other contests. Also, three of the four members of the 1st grade debate team who made it to the debate final had entered speech contests during junior high school.

To do well in a speech contest requires enthusiasm, a lot of hard work and a strong message. There have been some good results, but more importantly, all students have developed their ability to communicate ideas and feelings. This skill could lead to a bright future, not just for the competitors, but also the school, town and country to which they belong.

Speech competitors	中1	Taeko Takemura	(Kochi Ken speech 4th place)
	中2	Nao Hayashi Megumi Shinno Mayuko Mori	(Takamadonomiya speech 2nd place) (Kochi Ken recitation 1st place)
	中3	Kensuke Otani Tasuku Matsumura Chie Matsugi Shunichiro Saga	(Takamadonomiya recitation 1st place) (Takamadonomiya speech 1st place) (Kochi Ken speech 4th place) (Kochi Ken speech 2nd place)
	高1	Mana Kondo	
	高2	Mayu Kondo	(Kochi Ken speech 1st place)



Debate competitors	高1	Aya Takahashi Sawako Takahashi Yuto Hattori Masumi Hayashi	(Debate team 2nd place) (Debate team 2nd place) (Debate team 2nd place) (Debate team 2nd place)
	高2	Hirota Yamamoto Takuma Matsuda Yuki Matsuoka Yoko Nishiuchi Sarara Irie Miyako Hikichi Honami Shimanouchi	



芸術の秋 大きな実り

運動部の活躍の陰に隠れがちですが、文化部も地道な活動を続けています。この秋には、その活動の成果が大きな実りとなって表れました。代表的なものをいくつか……

1 棋道部

光のテラスでの練習風景もすっかりお馴染みになりました。今年度も熱心な取り組みが実績となつて四国大会・全国大会へ駒を進めます。

第5回四国地区高等学校文化連盟将棋選手権大会 (平成20年12月13日、14日愛媛県にて)

高校2年 一圓健太君 橋本和侑君 近藤博文君

第17回全国高等学校文化連盟将棋新人大会 (平成21年1月29日、31日岐阜県にて)

高校2年 一圓健太君

2 写真部

只今部員2名で頑張っていますが、嬉しい初入賞です。とても心情が表れている写真であると審査員の先生から講評を頂きました。

第28回高知県高等学校写真展 最優秀賞受賞 (5作品のうち1展)

高校2年 中平彩夏 作品名「存在する瞬間」

3 演劇部

中学生部員を中心にパワフルに活動しています。コンクールでも入賞し今後さらに期待できそうです。

第58回高知県高等学校演劇コンクール

演題「パヴァーヌ」 審査員特別賞受賞

4 科学研究

クラブには所属していませんが、独自に粘り強く研究を積み重ねてきました。

第52回日本学生科学賞 高知県高校の部 最優秀賞受賞

高校2年 竹崎夏姫 ハナスベリヒユの研究に対して

5 英語スピーチ

別掲のトム先生のレポートをご覧ください。



写真部の二人

中学校説明会に1200人

・広報部長 小村彰 先生・

新体育館にはじめて1000を超す椅子を並べる……今年の説明会は、その未知の世界(?)への不安多き取り組みでした。現在の形態、つまり広報担当が企画し、生徒や教員による学校説明と入試説明を行うという形になって、今年が6回目。だいたいノウハウは確立してきたつもりでしたが、新校舎の完成という新たな状況の下で、これまでのやり方を修正せざるをえない面が多々あつて、準備にはずいぶん気を遣いました。

たとえばスクリーン。新体育館のステージには大きなスクリーンが取り付けられています。ハンドルの回しておろすのですが、その時間のかかること…舞台の袖で延々回していると、しばらくたつと「ポトン」、また少したつと「ポ



トン」。何度か続くので気になって、ステージに見に行くと、落ちているのはバドミントンのシャトル! クラブの練習で打ち上げたもののようです。初めて使うときに、すでにこんなものがのっかっている…本校らしい(?)状況に、すこし笑つてしまいました。

体育館を使っているバスケット・バレー・バドミントンの部員たちに協力を依頼して、ステージ下の椅子を出そうとしたところ、その扉が開かないことが判明。急遽業者さんにきてもらつて、開くようにしてもらいました。従来よりは数段軽くなったシートを敷き詰めた上に、これは従来通りの体育館用の椅子を並べます。事前の申込数は昨年より少なかったため、昨年並べた椅子の数と同じでいいだろうという計算で、152個の椅子を並べて当日を待ちました。

「雨が降つたら」は禁句として進めた準備、当日は予定通りの快晴。スタッフの教員・中3生徒が集合する午前8時半過ぎに、早くも最初のお客様。大慌てで、スタッフが配置につきます。校舎新築に伴い、使用する門の位置が

変わったため、今年は初めて道路にも案内の教員がたちました。入り口を示すプラカードをもつて立つてもらうのは、本当に気の毒で申し訳なかったのですが、快く



引き受けてくれた3人の先生方、有難うございました。

そうこうするうちに、参加者はどんどん増えていきます。9時半までは新校舎の見学をしていただきましたが、思ったよりもスムーズに流れ、受付での混乱も少なく、順調にきていました。ところが、吹奏楽の演奏が始まる9時40分頃から、さらに入場してくる方の数が増え、空席が数少なくなつてきました。フロアの隅に予備として台車に乗せておいた椅子を教員と生徒が手分けして並べます。一部はステージ下からも新たに出して、なんとか間に合わせました。

結局昨年を上回る1200名以上の



参加者を迎えて、池上校長の挨拶から説明会が始まりました。続いて生徒を代表して中3の岡林さんから歓迎の挨拶が述べられた後、広報部から学校の説明を行いました。途中、プロジェクターを動かそうとしたところ、プラグがコンセントから抜けてしまい、しばらく映らないというハプニング。間を持たせるのに冷や汗をかきました。



各教科の入試説明では、熱心にメモをとる姿も見られ、休憩なしの長時間の説明にも緊張感はずつと続きました。最後に、トム、アンドリュース先生の指導の下、中1の生徒による英語の体験授業が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

終了後はアンケートの記入、質問コーナーでの質問、さらに校舎見学と、それぞれに時間を使っていたいただきました。最終的に皆さんがお帰りになったのは、午後0時半を回っていました。

不安の大きい今年の説明会でしたが、参加者の評価も上々で、私たちも胸をなでおろしました。協力してくれた中3・中1の生徒の皆さん、各クラブの部員の皆さん、本当に有難うございました。この成果が来春の入試での志願者の増加につながることを祈つてやみません。



新校舎第2期工事報告

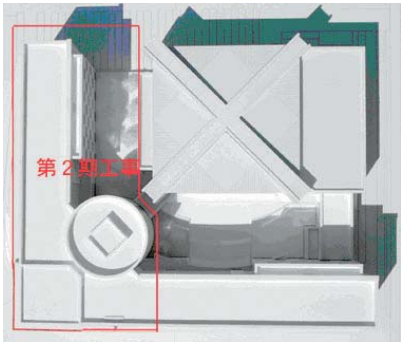
振興会監事

福島高明

工事現場を訪問、清水建設(株)の越智光徳工事長にご案内頂きました。

第2期工事は北側の旧校舎の一部を残し、その東側(写真A赤線の範囲)で建設が行なわれています。一部解体された旧校舎の柱脚は安全確保のため、1階柱脚部がコンクリートで耐震補強されています。(写真B)

工区は3工区に別れ、東側の第1工区は柱脚の免震装置、制震装置の取付けが終了し、鉄筋型枠の工程が進行中です。第2工区はその一手前で制震装置(写真C)が見ることが出来ます。保護カバーを外して頂



写真A



写真B



写真C



写真E



写真D



写真G



写真F

き、撮影しました。

旧校舎のすぐ東隣の第3工区の南に第1期工事の新校舎の北壁が見えます。第2期工事でのこの壁とドッキングします。(写真D)ここは非常に難易度の高い技術が要求されることです。

免震構造は地震がきて、基礎が震動しても、その「揺れ」を上部に伝えない構造です。写真は砂を敷いて、その上にコンクリートを打設、その後この砂をほじくり出すことで、縁を切り、

浮かすようになっていきます(写真E)

写真Aにある昇降口が入つて円形の階段室があります。(写真F)筒状になる壁は25センチの厚いコンクリートできいていて、内部仕上はコンクリートの素地(打放し)です。この空間構成は神聖で心を癒してくれる特徴のある空間になることが想像できます。2回の取材で、アリーナのアップローチ階段とこの階段室が新校舎の中でも、印象深い魅力をもつてい

るように感じます。校舎の正面入口付近のフェンスの一部に透明のポリカーネードが張られています。(写真G)これは生徒さんが工事現場を「垣間見られる。」という配慮です。世界屈指の高い技術がここにあるわけ

で、工学系に進む生徒さんたちがこの現場を見ることは、実にいい機会だと思えます。来年の完成が楽しみです。